

教 育 長 様

代表者 校 園 名:大阪市立本田小学校
校 園 長 名:銭本 三千宏 公印
電 話: 06-6581-1531 FAX: 06-6581-3194
申 請 者 校 園 名:大阪市立本田小学校
職 名・名 前 校 長:銭本 三千宏
電 話:06-6581-1531 FAX 06-6581-3194
代表者校 園 事 務 職 員 名:太谷 由香

平成29年度「がんばる先生支援」グループ研究 報告書

◇ 平成29年度 「がんばる先生支援」グループ研究について、次のとおり報告します。

1. 研究コース：いずれかを○で囲んでください。

グループ研究Aコース ・ グループ研究Bコース

継続研究：いずれかを○で囲んでください。

継続研究2年目

継続研究3年目

2. 研究テーマ

小学校で豊かに学び続けるための幼小の効果的な接続に関する研究
-----資質・能力の育成の視点による一貫した幼小連携-----

◆研究内容のキーワード：研究の内容をキーワードで書いてください。（【例】学力向上、体力向上等
言語活動、表現活動、運動、「ビック5」、学力向上、幼児教育の黄金律の育成、資質・能力の育成、教師の
カリキュラムデザイン力の向上、成長的思考態度の育成、メタ学習、

3. 研究目的：箇条書きで端的に書いてください。

- 西区幼稚園と豊かに学びつづけるための幼小の効果的な接続を継続研究した。
- 次期学習指導要領の実践を展望し、園児、児童の資質向上を育成するカリキュラムデザインを研究し、公開保育・授業、研究発表を行い、幼小の効果的な接続について検討した。
- J. Heckman 博士（2000年ノーベル経済学受賞）の「ビック5」研究や大阪市の「就学前教育カリキュラム」、Carol Dweck 博士の成長的思考態度のメタ学習の研究を踏まえ、幼小連携の効果的な接続について研究した。
- 4 幼稚園と本田小学校の教諭がコラボレーションして表現領域（特に音楽）や言語領域、健康領域の指導について保育研究・授業研究を行い、幼児教育の黄金律の育成と幼稚園、小学校の幼小の効果的な接続についての指導力向上を図った。
- 公開保育・授業のアンケート調査により研究の検証をした。

4. 取り組み内容：取り組んだ研究内容を具体的に記載してください。

- 教育資源へのアクセスの格差などが幼児・児童の環境の中で拡大していることをふまえ、就学前幼児教育カリキュラムに基づき幼稚園教育と小学校教育の連携をはかった。そのため、**言語活動**（主に国語科）・**表現活動**（主に音楽科）**健康**（主に体育科）領域について幼稚園教育要領・小学校学習指導要領・「就学前教育カリキュラム」の文献研究を行い、指導上の要点を整理した。
- ジェームズ・ヘックマン教授が「能力の創造」で提唱する社会で成功する性格特性「**ビック5**」の育成について**言語活動**（主に国語科）・**表現活動**（主に音楽科）**健康**（主に体育科）の領域で保育実践や授業実践を行い、「小学校で豊かに学び続けるための幼小の効果的な接続」について実践的検証を行った。この実践により子どもたちの**学力向上**という認知面だけでなく、**道徳面**や**社会性**など非認知面の成長についても研究する。授業実践については教育関係者や保護者、地域に公開した。

言語活動保育・国語科授業交流会

平成29年12月8日 於九条幼稚園 九条幼稚園教諭・本田小学校教諭による言語領域コラボ保育・授業

平成30年1月11日 於九条幼稚園 九条幼稚園教諭・本田小学校教諭による言語領域コラボ保育・授業

平成30年2月23日 於靱幼稚園 靱幼稚園教諭・本田小学校教諭による言語領域コラボ保育・授業

表現活動保育・音楽科授業交流会

平成29年11月28日 於オリックス劇場 西区全幼稚園・全小学校による音楽交流会 地域・保護者へ公開

平成30年2月19日 於靱幼稚園 靱幼稚園・本田小学校教諭による表現領域保育

健康活動保育・体育科授業交流会

平成29年7月14日 於九条幼稚園 九条幼稚園教諭・本田小学校教諭による健康活動コラボ保育・授業

平成29年9月20日 於九条幼稚園 九条幼稚園教諭・本田小学校教諭による健康活動コラボ保育・授業

平成29年9月27日 九条幼稚園 九条幼稚園教諭・本田小学校教諭による健康活動コラボ保育・授業

平成29年10月12日 於九条幼稚園 筑波大学附属小学校齋藤先生による提案保育

平成29年10月19日 於九条幼稚園 九条幼稚園教諭・本田小学校教諭による健康活動コラボ保育・授業

平成29年10月27日 於本田小学校 九条幼稚園教諭・本田小学校教諭による公開保育・授業

5. 成果・課題:申請書に記載した検証方法に基づいて取組を分析し、具体的に記載してください。

○ 園児、児童の資質向上を育成について

言語領域、表現領域、健康領域でそれぞれ2回の交流授業・保育、そして平成29年10月27日には全市対象の公開授業・保育を通して研究を行った。特に公開研究会では筑波大学附属小学校齋藤直人先生を招聘し、1時間目から6時間目まで公開保育・授業を行い、幼稚園・小学校低・中・高学年の体育科の系統性を明らかにした。幼稚園の幼児については、小学校の先生や児童と触れ合うことにより、小学校の親しみ、安心感、憧れの気持ち、就学への期待感を持ち、すすんで人と関わろうとする力、学びへの意欲を持つことができた。また、幼稚園教諭・小学校教諭が一同に会し、体づくり運動とボール運動についてのワークショップを行い、運動領域における幼小の連携の重要性について共有することができた。

子どもたちは大勢の参観者の前で、発表会を通じて、努力したことについて多くの人々に認めてもらうことができるという体験により、園児・児童の社会的承認の欲求を満たすのみならず、次の学びへのインセンティブを向上させ、学習の期待を膨らませることができた。

○「ビッグ5」と汎用的能力について

幼稚園と小学校の教諭が合同で保育や授業を行うことで指導の一貫性が生まれ、幼稚園でも小学校でも「友だちとなかよくすること(協調性)」「こつこつがんばること(勤勉性)」「わがまをいわないこと(外向性)」「くよくよしないこと(精神的安定性)」「やったことのないことでも挑戦すること(経験の開放性)」が大切なのだということを認識することができ、幼小の一貫した人格形成の重要性を改めて感じる事ができた。また、それが新指導要領で提唱されている汎用的能力(人間関係形成、社会形成能力、自己理解、自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力)につながる事が研究会を通じて共通理解できた。

○ 教職員の指導力向上について

幼稚園と小学校の教員が実践を交流することで、園児と児童の発達の特性を経験することができ、幼・小の教育実践の連携ができた。今年度は運動領域に特化して公開保育・授業、ワークショップをすることで運動領域の系統性の理解など専門性の高い交流ができた。また、幼児期から児童期までの運動健康、言語力、表現力について授業実践を通して交流することにより、特に教育資源へのアクセスが弱い家庭の子どもへの支援の必要性を共通理解することができた。とりわけ、自己肯定感の低い園児や児童にはCarol Dweck博士の成長的思考態度を育てることが需要で、能力を固定的に捉える固定的思考態度に陥らないようにエンパワーメントすることが重要であることが認識できた。

○ 検証結果について

公開保育・公開授業については参観者に保育・授業アンケートを行った。アンケート形式についてはICTモデル授業の「教育センターの調査用紙」を使用した。その結果「幼児教育の重要性を感じた」「肩の力を抜いて幼小の交流をしてみようと思った」などの項目で「とてもそう思う」という評価を95%いただいた。「園児・児童それぞれにとっての目的が達成できたのではないかと思います。今日の活動の中で感じた協調性・思いやりなどがいろいろな場面で活用されるように、大人が見取り、認め、励ましていく必要があると思いました。」「ワークショップで実際に体を動かして、運動領域の系統性を学ぶことができました。小学校で逆さ感覚を持つことができるようになるためには、幼稚園での遊びの場面でもぶら下がるなどの様々な動きを体験させることが大切であることがよくわかりました。座学だけでなく活動を通してよく理解できましたる」など、本研究への肯定的な意見をたくさんいただいた。

3年間続けた幼小の効果的な接続に関する研究は本年度で終えたい。巷間でも幼児教育の重要性が叫ばれ、国レベルでも幼児教育の充実が検討されている。しかし、重要なのはそれに携わる指導者の見識であることが3年間の研究を通して感じた。他の場所でも幼小の効果的な接続に関する研究が起ることを期待する。

6. 研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。

日程 平成29年10月27日

場所 本田小学校

参加者数 延べ100人

上記の内容を平成30年2月26日までに大阪市教育センター「がんばる先生支援」担当まで提出してください。
(研究資料等を添付)